

NPO法人 海に学ぶ体験活動協議会 第7回全国フォーラム

～海と生きる～

期日 平成25年2月2日（土）13：30～17：30

会場 東京海洋大学品川キャンパス

楽水会館1階大会議室（鈴木善幸記念ホール）

司会 第7回全国フォーラムを開催いたします。本日はお忙しいところをご参加いただき、まことにありがとうございます。

私は本日、司会を務めさせていただきますCNAC事務局の野田でございます。よろしくお願いいたします。

最初に本日のスケジュールをご案内いたします。

最初にお二方より、キーノートスピーチをいただきます。お一人目が三宅島ネイチャーガイドの穴原奈都様でございます、「未来に繋ぐ故郷の海」というタイトルのもとでスピーチをいただきます。お二人目が南伊豆エコツアー・ネイチャーガイドの堀直也様でございます、「サーファースピリッツで挑む海辺の環境学習」というタイトルのもとでスピーチをいただきます。

次に活動事例報告として、「きれいな海を守る心をひろげるためのプロジェクト」というタイトルで、環境ボランティアサークル亀の子隊、鈴木吉春様、「海のバリアフリーまつり」というタイトルで、NPO法人海の達人、大野木博久様、「美しい海づくりプロジェクト—市民協働による環境と安全・学びのまちづくり—」というタイトルで、ほっかいどう海の学校、大塚英治様の3名様よりご報告をいただきます。

その後、休憩を挟みまして後半は、「今、海と生きる、とは」というテーマのもと、壇上の皆様、会場の皆様とともに全体討論を行いたいと考えています。

その後、夕方からは別会場にて交流会も予定しておりますので、ご参加のほどよろしくお願いいたします。

また、アンケート用紙があると思います。こちらはフォーラム終了までに記入していただいて、終了後に受付へ提出をお願いいたします。

開会挨拶

三好 利和 氏（海に学ぶ体験活動協議会代表理事）

司会 それでは、開会の挨拶に移ります。

開会の挨拶としまして、CNAC代表理事の三好利和より挨拶を申し上げます。

三好 皆さん、こんにちは。

一同 こんにちは。

三好 ご紹介いただきました代表理事の三好でございます。

本日は第7回の全国フォーラムにご参加いただき、ありがとうございます。

海に学ぶ体験活動協議会ということで丸5年が経過し、さらなる次の5年に向けて協議会としては進んでいきたいと思っております。2013年は蛇年ということで、よく言われるのは、蛇は脱皮をするので新しく変わる年というふうに言われますが、私どもの協議会もまた新しい協議会になるべく頑張っていきたいということを考えております。

本日のテーマは「海と生きる」。なかなか、かたいというか、強い口調でございますが、私どもも海に関する活動をしているわけでございますけれども、やはり海とともに活動し、そしてやはり最終的には海とかかわりを持ちながら生きていくことがとても重要なんだ、大切なんだといったことを自分自身も感じてまいりたいですし、多くの方にそれを感じていただきたいと思っております。

本日はキーノートスピーチで、若い世代のお二方をお願いしました。それは、私どもの世代も当然頑張らなくてはいけないんですが、若い世代にも海にかかわって活動して行ってほしい。そして今、現実的に活動されているお二方をお願いしておりますので、若い方からのメッセージ、それから協議会からのメッセージ、いろいろなものをこのフォーラムの中で発していきたいと思っております。

後半のほうでは、会員の中からの事例報告。

そして最後には、ここに参加いただいている皆さんも一緒に参加していただいて、これからの海とのかかわりみたいなどを皆さんで検討できればいいのかなと思っておりますので、限られた時間ではございますが、有意義な時間にしていききたいと思いますので、よろしく願いいたします。

以上です。

司会 ありがとうございます。

来賓挨拶

杉中 洋一 氏（国土交通省港湾局海洋・環境課港湾環境政策室長）

司会 続きまして、ご来賓よりご祝辞を賜りたいと思います。

国土交通省港湾局海洋・環境課港湾環境政策室長の杉中洋一様よりご挨拶をいただきたいと思えます。

では、杉中さん、よろしく願いいたします。

杉中 皆さん、こんにちは。

一同 こんにちは。

杉中 ただいまご紹介にあずかりました杉中と申します。

本日は第7回のCNACの全国フォーラムということで、本当におめでとうございます。

日ごろ港湾のいろんな活動あるいは海岸の活動を通じまして、国土交通省の行政にもご協力いただいていることに感謝を申し上げます。

きょうは第7回のフォーラムということで、「海と生きる」ということで全体のプログラムをいただきました。

それで、国のお役人なので大げさに言うと、例えば生物多様性とか、そういう上位の計画も国際的にはもちろん大切でございます。あるいは、少し地域に目を向けてみますと、閉鎖性海域であれば、東京湾であれば東京湾再生計画とか、大阪湾再生計画とか、あるいはそれぞれの地域の計画あるいは

活動、そういう場で皆様方も日ごろから活動されて、そういう中で環境保全や環境教育ということも普及していただいているんだと思います。

昨今いろいろ大きな出来事がありまして、震災も少しあったということで、海とのかかわりという意味では若干少しマイナスの面が出てきている。あるいは、私も子供がいるんですが、学校に行きましても、全体として、いじめの問題とか、いろんな生徒同士や学校の中でも触れ合いをどんなふうに確保していくかとか、そういうもう少し日常生活とか、日ごろ生きていく中で、もう少し世の中がよくなるかなというような点もございます。そういうときにやはり環境教育、あるいは環境保全の考え方を普及していくというのは非常にある意味、少しずつではありますが、世の中を変えていく着実な手法なのかなと思ったりしています。

最近、行政のほうで東京湾再生計画が10年間、終えたものですから、次の10年間の計画をつくっておりまして、そういう中で、いろんな関係者がいらっしゃいますので、関係者の方に参画していただくということを少し今、目指しております。これは、NPOの方はもちろんでございますが、レジャーの関係者とか、水産の関係者とか、あるいはそれに加えて企業の関係者の方も何とかうまく巻き込んでいきたいと思っております。日ごろ皆様方はいろんな活動されていると思いますが、企業を含めた関係者とうまいこと連携ができるように少し行政としてしっかりやっけていかないといけないなと、いろいろ考えておりますので、きょうは皆様方の創意工夫に満ちた発表があると思いますし、こういう交流の場もございますので、ぜひそういうものが発展をされるとともに、私自身もそういう行政の立場でいろんな工夫とか、知恵とか、あるいは連携の仕方というのを学ばせていただければありがたいと思います。

きょう一日、よろしく願いいたします。(拍手)

司会 杉中様、ありがとうございました。